

整備された評価体制で成果を確かなものに。

①学長自らが行う評価

今回の教育改革では、各プロジェクトに対して定められた指標に基づいて、学長自らが評価を行い、評価に応じた予算の分配を行います。なお、定められた指標の中に位置づけられる参加者満足度とは、コトづくりプラットフォームに参画する地域住民や企業の方々から地域の課題解決に向けた真摯な取り組みを創出することを指しており、学生に対する魅力的な学習機会の創出と直接的に関係することから、今回の教育改革に対する外部評価の中でもっとも重要な指標となります。

②教育改革全体の評価

今回の教育改革の目的は、学生の修学に対する取組の意識と行動を一段高めることにあります。その目的達成のために3つの重要な指標を位置づけています。1つ目は、学生の地域の課題解決に取り組んだ成果に対する地域社会の満足度です。2つ目は、地域の課題解決に取り組む地域志向教育研究プロジェクトへの学生の参画数です。3つ目は、そのプロジェクトと連動する地域志向に基づいたアクティブラーニングの実践についてです。これら3つの指標により、教育改革全体の評価、並びに改善の意思決定を学長が行います。

③学生の成長を図る指標

学生個々人の達成度に対する評価については、学習プロセスに基づいた5つの総合力指標に基づいて行われ、学事運営組織の中で全学的に把握され、教育点検評価部委員会において、継続的な改善のフィードバックが行われます。一方、今回の教育改革では地域社会との連携が核となるため、地域住民や企業の方々からの学生の成長に対する評価を積極的に実践します。これらのプログラムを通じて第三者から評価を頂く仕組みを構築し、学生に対する新たな気づきをもたらす評価を行います。

④教学経営全体の自己点検評価の実践

今回の教育改革の学習機会の一つとして実施される経営イノベーション講座に関連して、本学の教学経営全体の自己点検評価を行います。補助期間終了後における評価体制にも関連しますが、創出される様々な学習機会を継続的に推進するためには、教学経営全体の最適化が必要となります。経営革新の自己点検に取り組み、第三者からのフィードバックコメントを頂くことで、地域社会から必要とされる大学に向けた新たな改善に取り組むことが可能となります。

教員のプロジェクト発足によるコトづくりプラットフォームの評価



地域志向「教育改革」による人材イノベーションを実践! 「工学アカデミアの形成」を地域と共に目指します。



共に学び



気づき



行動する

金沢工業大学(KIT)が野々市市及び金沢市と連携し目指すのは、地域社会との共同と共創による人間形成の拠点づくりです。地域社会の新たな価値創造に向けた「コトづくり」にチャレンジする「コトづくりプラットフォーム」を構築し、学生、教職員、地域住民、企業の方々と共に「学び」「気づき」「行動」することで、地域の課題解決

に取り組めます。学生に魅力的な学習機会を創出する改革を実践し、これらの教育改革を通じて地域社会の方々がお互いに必要な知識や技能を与え合い、共同と共創による知恵の生産を行う場の形成に取り組む「工学アカデミアの形成」を地域と共に目指します。

KITが従来より「地域志向」を貫いているのは、 地域社会が「人間力」を醸成する「学びの場」だからです。

学生は学内で知識や技能を修得すると共に、地域住民や企業の方々と、共同と共創による教育研究実践に取り組みます。地域社会の複雑な制約条件の中、さまざまな人との出会いから、学生自らの価値観や態度に対する新たな気づきを得て「人間力」を育みます。教職員は、学生が取り組む地域社会との教育研究実践の環境を整備すると共に、自身の研究や携わる業務の成果が地域社会へと貢献できるよう、自己点検評価の成熟を図ることで、教職員自らの「人間力」の向上を図ります。

さらに、これら人間力を向上させた学生、教職員が地域社会に貢献できるよう、教育研究実践の成果を活用した学習機会を提供。地域社会の人々が「学び」、「気づき」、「行動」することで、それぞれ

の「人間力」を高めることに繋がります。「人間力」向上のために交流する場は、KITが地域と共に取り組む「工学アカデミア」そのものであり、学生・教職員・企業・地域住民といった地域社会の人々が、お互いに必要な知識や技能を与え合い、共同と共創による知恵の生産を行う場となります。

「学び」と「気づき」と「行動」が自在に行き交う、 全学的な教育改革で「人間力」醸成に取り組みます。

地域の課題をテーマとする“コトづくり”プラットフォームを構築。このプラットフォームは官学が連携し、学生、地域住民、企業がそれぞれの立場から、地域の課題に関連した「学び」と参画する方々の相互理解を通じた「気づき」、さらには“コトづくり”に向けた「行動（動機付け）」を行う拠点として位置づけられ、最終的に地域の

課題解決に向けた具体的な取組“コトづくり”を創出します。交流を通じて得られたKITと地域社会の方々との関係や人々の繋がり、さらにはそれぞれの立場を整理したうえで、地域の課題の解決に実質的に取り組むコミュニティを形成。KITが構築する“コトづくり”の具体的な取組内容は、いわゆる大学にとっての「教育」、「研究」、「社会貢献」に分類されるものであり、「教育」、「研究+教育」、「社会貢献+教育」という、3つに分類される“コトづくり”を通じて全学的な教育改革を推進し、学生の「人間力」醸成に取り組みます。



■地域の課題理解(学び)

コトづくりプラットフォームの導入プログラムとして位置づけられる「地域の課題への理解の場」では、以下に示す切り口から参画する学生、教職員、自治体職員、地域住民、企業の方々がそれぞれ情報を発信します。地域の課題の本質への理解と、参画する方々のプロフィールについて理解を深めます。

〈自治体からの地域の課題に対する情報発信〉〈本学教員による解決策の切り口として多様な専門領域からの研究成果に関連した情報の発信〉〈地域住民や企業から、地域の課題に関連した具体的なニーズや状況の発信〉〈外部講師による同様の課題の解決に対する先進的な事例に関する情報の発信〉

■相互理解(気づき)

「相互理解の場」では、コトづくりプラットフォームに参画する立場の異なる方々が、お互いの利害関係を踏まえて、地域の課題に対してどのように取り組むのかをテーマにグループ討議します。地域社会からの視点で見ると、業界や市場を巻き込んだ意見交換の場となります。これらを繰り返すことにより、それぞれの立場の枠を超えて一つの解決策を導き出すことが可能となります。これらのプロセスの中で生まれる交流は相互の信頼関係を構築し、「コトづくり」の核となるコミュニティの創出へと繋がります。

■動機付け(行動)

「動機付けの場」では、「相互理解の場」を経て創出された解決策を、参画する学生、地域住民、企業の方々に対してプレゼンテーションします。コトづくりプラットフォームにおいて“コトづくり”の提案を行う場となります。地域の課題のテーマに組み合わせプログラムを構築し、学生、地域住民、企業による“コトづくり”創出のコミュニティを形成します。

■コトづくり

「学び」「気づき」「行動」を通して学生が「正課学習+課外学習」による地域の課題にチャレンジし成果をあげる魅力的な学習環境を創出。地域の課題をテーマとした、“コトづくり”の環境を整備することで、教育・研究・社会貢献による学生にとって質の高い多くの学習機会を創出することが可能になります。

また、学生と共に地域住民、企業の方々が、コトづくりプラットフォームにおける「学び」、「気づき」、「行動」のプロセスを経て、“3つの要素のコトづくり”に取り組むことで、地域全体の教育力が向上し、地域社会と共に実践する工学アカデミアの形成の基盤を確立することが可能となります。